

## 第8回高校生等の自殺予防対策に関する委員会（議事概要）

1 日時 平成26年1月31日（金） 18:30～20:30

2 場所 兵庫県庁3号館 10階 教育委員会室

### 3 会議の概要

- (1) 次長挨拶
- (2) 報告書骨子について
- (3) 報告書について
- (4) 課長挨拶

### 4 協議

(1) 資料を用いて前回までの協議内容につき確認（事務局）

- ・報告書骨子案について
- ・報告書案について

(2) 各委員から出された意見

（委員）報告書骨子の内容について、漏れている点や修正したほうがよい点などがありましたらご意見を願う。

（委員）審議内容を「自殺予防対策の基本的な考え方」「自殺予防対策の取組」に分け構成することには異議はない。

（委員）「心の危機への対応」については、前回の会議で「心を」省略し「危機への対応」にすることに決定したので修正すること。

（委員）骨子がいきなり内容に入っているので、なぜ自殺予防教育が必要なのかを骨子に入れた方が分かり易い。

（委員）報告書には自殺予防教育の必要性について書いているが、骨子の「自殺予防教育の必要性」を「自殺予防の必要性」とし「1 高校生の自殺の現状」と「2 自殺予防教育の必要性」に分ける。

（委員）ソーシャルサポートが用語解説に回っており必要性が理解されない。ソーシャルサポートと、レジリエンスを絡める必要がある。

（委員）もともと「自殺予防の観点」でレジリエンスとソーシャルサポートをまとめて書いていたが、文章ばかりで読みにくくなり後に回した。指摘通り、ソーシャルサポートの視点を少し加え、レジリエンスとソーシャルサポートについて文章を再構成する。

（委員）特にソーシャルサポートについては「私の相談先マップ」の作成があるので、そこで詳しく書き、文章を再構成する。

- (委員)「2 自殺予防の観点」の中に新しく「(3)として自殺予防の組織体制」の項目をたて、「(4)危険性の高い高校生への自殺予防」の内容を整理する。
- (委員)「自殺予防教育の必要性」の中に、当初入れていたグラフを、構成上省いたがこのままで問題はないか。
- (委員)文章ばかりでなく、グラフを入れた方が読みやすい。また視覚に訴えるという点でも理解しやすいので、グラフは入れるべきである。
- (委員)「(5)自殺予防教育の推進上の留意点」に実施前に関係者の合意形成を入れる。また、本文の中にある教職員間や保護者の同意形成についての文章を見出しの後すぐに入れる。
- (委員)「2 心の病への理解」の中での表現の仕方は、もう少し工夫が必要。
- (委員)「医療機関と連携した連携した支援体制の整備」をどう書くのか、この部分のイメージが共通理解できていない。
- (委員)危険の高い生徒が出てくる。その時にどう対処するのか。専門家にアドバイスをもらうケースはどういう流れをとるべきなのか等を書く。
- (委員)学校から専門医を紹介してもらうことも一つの方法である。
- (委員)学校に精神科医がいることはほとんどないので、ブロックごとに置く必要がある。ブロックごとに置いていけば、何かあればそこを受診できる。
- (委員)教育事務所には、学校サポートチームがあり、そのメンバーには精神科医もいる。
- (委員)「6 相談できる力の育成」で「相談できる力を育む」や「信頼できる大人に相談する」とあるが、エピソードなど具体的に書かないと理解しづらい。この項はまとめの部分であるため、全委員がそれぞれ書き、その中から一番よいのを選ぶべきである。
- (委員)どの部分も重要と考えこれまで議論し、それぞれ担当を決めてやってきた。意見を出し合い、意見を考慮し担当で書いていくことが委員会として大事である。次回までにこの部分を再考し書き直し確認してもらおう。それでも過不足があれば次回の会議で再度詰め、委員会として文章をまとめる。
- (委員)新たに追加した「初等・中等教育を通じた自殺予防」の項目であるが、失敗経験のなかから様々な力を身に付けていくというのは、その通りである。高校生段階からの取組だけでは対応しきれないので、現実的な必要項目である。
- (委員)確かに必要な内容である。一カ所気になる点がある。「身近な友人を助けるため」とあるが、助けられない場合もある。そういう視点も考慮し、このまま書くのか書き直すのか検討が必要である。
- (委員)年度末まで時間があまりないが、各担当文章を本日の意見を踏まえ、再整理願う。